

一般教育総合コース

続・日本と外国

1971年度



お茶の水女子大学

目 次

「続・日本と外国」序説……………堤 精 二	1 頁
第 一 講 西洋の文化と日本の文化……………茅 野 良 男	2 頁
第 二 講 日本の公害と外国の公害……………坂 上 治 郎	4 頁
第 三 講 日本の近代化に対する日米の学者の見解……………尾 鍋 輝 彦	5 頁
第 四 講 文学にあらわれた日本の美と西洋の美……………辻 邦 生	6 頁
第 五 講 東洋と西洋の人間形成 —その差異と出会いと—……………津 守 真	7 頁
第 六 講 日本と外国における自然への対応の違い……………正 井 泰 夫	8 頁
第 七 講 日本人の国民性……………藤 永 保	9 頁
第 八 講 日本の家計と外国の家計……………伊 藤 秋 子	10 頁
第 九 講 数学における各国人の気質と日本の現状……………林 田 侃	11 頁
第 十 講 中国文化は味わえるか……………戸 川 芳 郎	12 頁
第 十 一 講 文学と法律……………井 上 茂	13 頁
第 十 二 講 日本と外国との植物の交流の歴史……………津 山 尚	14 頁
講 義 日 程……………	15 頁

総合コース「続・日本と外国」 序 説

1956年に始まった本学の総合コースも今年で16回目になる。随分長い時間を経たものであるが、その間にいく度かの試行錯誤を繰り返して、総合コースという大学教育における新しい形態を作り上げて来た訳である。今日なお、解決しなければならない諸問題を蔵してはいる。しかし、それは今後とも教官と学生が英智を傾け改善に努力することとして、総合コースの理念であるところの、広い視野に立って物事の根源を見ずえる眼を養うことは、かなりの効果を生んでいると思われる。げんに他大学にあっても、本学の試みに多くの関心を示し、各大学それぞれ独自の方法で、総合コースの実行に着手しているし、また、昨年度の文部省の一般教育の改正に際しても、総合コースの形態を大きく取り入れている。これは長い間教官と学生が一体となって育てて来た、本学の総合コースの成果が認識されてきたものといえるであろう。

さて、本年度のテーマは題して「続・日本と外国」という。これは昨年度のテーマ「日本と外国」の継続を意味するものである。「日本と外国」というテーマはその範囲がはなはだ広く多種多様の問題を含んでおり、昨年一年では検討しつくしえなかったし、また一年間の講義を通して新しい問題のありどころに気づきもした。ここに繰り返し問いかける所以である。したがって、昨年度の継続ということにとらわれることなく、各講師の講義を通して、「日本とは何だろうか」ということに新しい関心と、自らの新しい問題の発見を試みてもらいたい。従来の総合コースが重視してきたものは、学生の講義に対する姿勢を受動的なものから能動的なものに前進させる点にあった。だとすれば「日本と外国」というテーマほど適切なものはないではないか。なぜなら、このテーマは諸君一人一人の問題であるからである。各講師の講義を受講する前にみずからの手によって十分な検討を加え、根深い問題意識を用意されんことを切望してやまない。

堤 精 二

第一講 西洋の文化と日本の文化

茅野良男

1. XとY 一般に二つの概念が関わり合いのうちにあるとき、それらはいかなる性質を相互に共有ないし排除しあうのか、結合詞「と」という結び目は、項目を包むのかそれともどちらかに片よっているのかどうか、まず検討したい。
2. 文化 次に「日本と外国」という主題を見る相を文化と置くとき、文化とは何かを考えたい。
3. 西洋の文化 ヘレニズム「と」ヘブライズムがいかに西洋の人間観と歴史観とを規定しているか、これを追跡したい。
4. 文化の了解 日本近代の哲学者を例にとり、西洋の文化の了解と接取との意味と重味と労苦とをたどり、異なるものの了解と自己了解とが相即するという了解の真意をつきとめ、かかる了解の遂行ということをもって、「と」の地平を幾分かでも明確にしたい。

参 考 書

- 池上謙三 『論理学』要書房（1に関して）
トインビー 『歴史の研究』1-5 現代教養文庫（2に関して）
池上謙三 『文化哲学基礎論』岩波書店（ " ）
石田英一郎 『人間と文化の探究』文芸春秋社（ " ）
泉 靖一 『文化のなかの人間』文芸春秋社（ " ）
今西錦司 『人類の誕生』河出書房世界の歴史1（ " ）
山内恭彦 『現代科学論』筑摩書房（ " ）
茅野良男 『哲学的人間学』塙書房・塙新書（ " ）
高津・斉藤 『ギリシャ・ローマ古典案内』岩波文庫別冊（3に関して）
ブルトマン 『原始キリスト教』新教出版社（ " ）

- 八木誠一 『キリストとイエス』講談社・現代新書（3に関して）
ニーチェ 『悲劇の誕生』岩波文庫（ " ）
ニーチェ 『この人を見よ』岩波文庫（ " ）
茅野良男 『歴史のみかた』紀伊国屋新書（ " ）
九鬼周造 『いきの構造』岩波書店（4に関して）
和辻哲郎 『風土』岩波書店〔現在全集〕（ " ）
西田幾太郎 『日本文化の問題』岩波書店〔現在全集〕（ " ）
森三樹三郎 『無の思想』講談社・現代新書（ " ）
末木剛博 『東洋の合理主義』講談社・現代新書（ " ）
茅野良男 「了解の問題」岩波講座哲学第十一巻『科学の方法』（ " ）

第二講 日本の公害と外国の公害

坂上治郎

公害の内主として大気汚染を基本として、公害の本質について述べ、そのとらえ方や対処に対する考え方について述べる。更に公害の現状やその対策の日本と外国の例について述べる。

参考文献

- (1) 公開講座「公害」東大出版会
- (2) 「世界の公害と日本の環境問題」経済企画協会
- (3) 大喜多敏一「大気汚染」総合図書
- (4) 庄司光、宮本憲一「恐るべき公害」岩波新書521
- (5) 「大気汚染ハンドブック」大気汚染シリーズ3、コロナ社

第三講 日本の近代化に対する日米の学者の見解

尾鍋輝彦

1. 欧化主義における西欧化と近代化の混同
2. 資本主義批判における近代化不徹底論
3. 日本のマルクス主義史学がアメリカ史学界へ及ぼした影響
4. ライシャワーらの近代化論
5. 明治百年記念祭反対論における近代化論批判
6. 最近における日本の学者の近代化論受け入れ
7. 近代化論に対するアメリカの学者の反省
8. 社会的、文化的環境の差異

参考書

- 宮本又次編、アメリカの日本研究、昭45、東洋経済新報社
ジョン・W・ホール著、尾鍋輝彦訳、日本の歴史、上・下、昭45、講談社
ジョン・W・ホール、近代日本評価の態度（中央公論、昭44、1月号）
M・B・ジャンセン、近代日本百年の意味（同上）
金原左門、J・W・ホールの「日本近代化」分析方法の提案をめぐって
（日本歴史、昭45、7月号、8月号）
尾鍋輝彦、近代的原理とアジア（思想、昭33、5月号）
尾鍋輝彦、西洋人による日本史文献案内（日本歴史、昭39、1月号）
尾鍋輝彦、ライシャワー論文の展開のために（朝日ジャーナル、1964年10月18日号）

第四講 文学にあらわれた日本の美と西洋の美

辻 邦 生

日本文学のなかに見られる美感は、「もののあわれ」にせよ「わび・さび」にせよ「幽玄」にせよ、文学者達の深い人生観照と芸術意志のうえに生まれている。それはまた西洋文学にあらわれたさまざまな美感——たとえばホメロスにおける透明な哀感に包まれた叙事的崇高さ、あるいはシェイクスピアの悲劇的壮大さと甘美な抒情性、またはロマン派文学が完成した孤独の荒涼感と無限なものへの憧れなどについても同様である。

本講においては、こうした龐大に広がる主題のなかから、日本と西洋の本質を最も鋭く示す二、三の美的特質に注目することによって、文学者が人間、人生、自然、芸術等にどのような態度をとり、それをどのように把握し発展させてきたかを考え、それを通じてこの両文明の相違を明確にし、文学の本質を明らかにしたいと考える。

参考文献

- 大西克礼 風雅論 (岩波書店)
幽玄とあわれ (岩波書店)
万葉集の自然感情 (岩波書店)
ウェレック、ウォーレン (大田三郎訳) 文学の理論 (筑摩叢書)
アルベール・ゲラール (中野好夫訳) 世界文学序説 (筑摩世界文学大系・別巻)
夏目漱石 文学論
高橋義孝 近代芸術観の成立 (新潮社)
アウエルバッハ (篠田一土訳) ミメーシス (筑摩叢書)

第五講 東洋と西洋の人間形成

——その差異と出会いと——

津 守 真

1. 東洋と西洋の育児様式の共通点と差異について見る。その背景をなす児童観や文化、家庭との関連を考察する。
2. 東洋人と西洋人の行動様式、思考の仕方、感じ方など、精神構造の差異と類似について発達的に考察し、両者の出会いについて考える。

参 考 書

- 河井隼雄 ユング心理学入門 培風館
牛島義友 西欧と日本の人間形成 金子書房
佐藤幸治 心理禅—東洋の知恵と西洋の科学、創元社
ユング・高橋義孝・江野専次郎訳 現代人のたましい 日本教文社
リード・植村・水沢訳 芸術による教育 美術出版社

第六講 日本と外国における自然への対応の違い

正井 泰夫

民族のもつ文化は、さまざまな人文・社会的条件によって異なるが、自然環境への対応の仕方においても、きわめて多様である。現時点において、自然への対応あるいは自然の利用が、国によってどう違うかを考察してみよう。

1. 気候と生活文化

日本……特に、冬の寒い気候に対して、どのように対応してきたか。

アメリカ……特に、南部の夏の暑さに対して、どのように対応してきたか。

インド……特に、湿潤暑熱の気候に対して、乾燥都市文化が、どのように対応してきたか。

2. 地形と生活空間

日本……特に、狭い平地の利用形態と交通手段の近代化について。

アメリカ……特に、広大な地表空間をどのようにして克服してきたか。

インド・ネパール……開発途上国における地表空間の利用形態について。

第七講 日本人の国民性

藤 永 保

国民性（民族的性格）とは何か、国民性を形成する条件は何か、日本人の国民性といわれるものは何かなどを、なるべく実証的資料にもとづいて論述したい。

参考文献

ミード 男性と女性（上下） 東京創元社

牛島義友 西欧と日本の人間形成 金子書房

田中国夫 日本人の社会的態度 誠信書房

依田新・築島謙三（編） 日本人の性格 朝倉書店

ベネディクト 菊と刀 社会思想研究会出版部

加藤秀俊（編） 日本文化論 徳間書店

ベラー 日本近代化と宗教倫理 未来社

統計数理研究所国民性調査委員会 日本人の国民性 至誠堂

第八講 日本の家計と外国の家計

伊藤 秋子

GNP ではわが国は世界第2位あるいは第3位といわれながら、1人当りの所得は第20何位という低さにある。1人1人が生活の基盤を置く世帯としてみた場合、家計のあり方は、他の国々と比較してどのような位置にあるであろうか。所得、税金・社会保障費、生活費、貯蓄、物価など、主として貨幣的側面からわが国の家計の位置づけを行なう。時間が許せば物的側面からの生活水準の比較にも触れたい。

参考文献

- 美濃部亮吉 日本経済入門（有斐閣双書、昭和42年）
国際連合編、厚生省訳 世界の経済開発と社会開発（原書房、昭和39年）
江見康一・溝口敏行、個人貯蓄行動の国際比較（岩波書店、1968年）

第九講 数学における各国人の気質と日本の現状

林 田 侃

数学における心理は世界のどこに行っても変わりはない。他方、数学は絵画などと同様に人間精神の産物——芸術作品——でもある。そこで数学における色々な国——イギリス、ソ連、フランス、ドイツ、イタリア、アメリカ、日本、中国など——の個性の一端を眺めてみよう。あわせて日本のおかれている状態をふり返ってみる。

参考図書

- 高木貞治 近世数学史談 共立出版
ブルバキ 数学史 東京図書
赤・前原・村田編 数学のすすめ 筑摩書房

第十講 中国文化は味わえるか

戸川 芳 郎

本年度のテーマには「日本人にとっての中国」とか「わが国の中国研究」といった標題がふさわしかろう。ただ、今回はそれを概説することはさておき、ある個別の事象を説明するなかから、これらの現状を推察していただくことにする。

中国語文のもつ特徴を手がかりに、音声と意味、事物と名称、思弁的と即物的、といった認識と思考方法の根源にかかわる問題を、具体事例で示したい。その解明にいたっては、諸生の新鮮な感覚にこそ期待すべきものがある。

参考文献

上山春平・梅原猛編〈シンポジウム 日本と東洋文化〉

山田慶児 〈未来への問い — 中国の試み — 〉筑摩書房、1968、

吉川幸次郎 〈吉川全集〉第20巻、筑摩書房、1970、

尾藤正英編 〈日本文化と中国〉中国文化叢書10、大修館、1968、

第十一講 文学と法律

井 上 茂

第1回

○ ドストエフスキーにおける「法と道徳」

○ シェクスピアにおける「法と自然」

第2回

○ 日本文学と法律

○ 法と自然と秩序

第十二講 日本と外国との植物の交流の歴史

津山 尚

植物には種類によってその天然に生育する地域は地球上の一局所に限られたものが多い。これらの中、人間の利用する植物、たとえば農業に関係する植物、これに随伴する雑草、観賞用の植物は、地球上における人間の移動と共にその分布域を拡大し、これを利用する各地の人類社会の好尚にしたがって、自然の進化過程をはるかにしのぐ速度で変化を遂げている。これらの主要な交流路は中央アジアを貫くシルクロード、旧大陸の南海交通路および、アメリカ大陸の西歐人による再発見の結果としての大西洋航路などであるが、これらが現実の日本の植物文化に如何に影響を与えたか、また日本がいかに海外のそれに寄与したかを実例をもって述べる。

参考書

ドカンドル：栽培植物の起源（加茂儀一訳） その他同訳者の著書

Leufer : Sino-Iranica

講義日程

(講義日時 = 土曜日第三・第四時限 10:20~12:00)

月	日	系列	担当講師	月	日	系列	担当講師
4	17	序説	堤 教授	10	23	人文	藤永 教授
	24	人文	茅野 教授		30	"	"
5	1	"	"	11	6	社会	伊藤 助教授
	8	自然	坂上 教授		20	"	"
	15	"	"		27	自然	林田 助教授
	22	社会	尾鍋 教授	12	4	"	"
	29	"	"		11	人文	戸川 助教授
6	5	人文	辻邦生 講師		18	"	"
	12	"	"	1	22	社会	井上 教授
	19	社会	津守 教授		29	"	"
	26	"	"	2	5	自然	津山 教授
9	11	自然	正井 助教授		12	"	"
	18	"	"		19		ゼミナール
9	25		ゼミナール		26		試験



